

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒一人ひとりが、確かな学力と豊かな人間性を備え、高い志をもって、伸び伸びと主体的に高校生活を送ることのできる学校をめざします。

- 1 学業を第一として捉え、知識や技能の習得とともに、考える力、学ぶ意欲を育みます。
- 2 他者と協働する様々な活動を通して、主体性、協調性、自律性、社会に貢献する力を育みます。
- 3 自らの意思で行動し、夢の実現に向かって努力を継続する力を育みます。

2 中期的目標

1 学力向上と進路実現

(1) 教科指導を充実させ、生徒の学力を向上させる。

- ア 学習に向かう意識を向上させるとともに、授業見学、校内研修、授業アンケート等により継続的な授業改善を図り、生徒の学力向上に結びつける。
- イ 「魅力的な授業・わかる授業」を確実なものとし、さらに一歩進んで「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざす。

令和2年度 学校経営推進事業『さつき「授業力向上」プロジェクト ～進路実現のための素養（考える力、学ぶ意欲）を育む～』により、普通教室にプロジェクタ1台、およびロール式スクリーン等(総額100数万円)を設置し、授業の効率化、思考判断・成果発表等の時間確保による「主体的に学びに向かう態度の育成」を図る。

(2) 自学自習する力を育む。

- ア 家庭学習や補習・講習等の授業外学習に取り組む力を育成する。
- イ 読書活動を推進するとともに、様々な資格取得の機会を提供し、前向きに取り組む意欲を向上させる。

(3) 進路指導の充実に取り組む。

- ア 3年間を見通した系統的・継続的な進路指導を実践し、多様な進路希望に丁寧に対応する。
- イ 模擬試験や学びの基礎診断等を活用し、生徒の学力等の推移を把握して、時機を捉えた進路指導を行う。

※ 授業満足度 R5年度には85%以上を維持 (R1 88% R2 86.6% R3 90.5%)
[強い満足度60%]

授業以外の学習1時間以上 R5年度には60%をめざす (R1 30% R2 28.9% R3 32%)

進路指導に対する肯定率 R5年度には85%以上を維持 (R1 88% R2 88.6% R3 90.6%)

[学力診断テストにおける学力評価(2年次のCゾーン以上の割合) R2 55%→R3 79%]
[難関・中堅私立大学への進学者数 16名](R4.1現在)

2 豊かな人間性の涵養

(1) 学校・地域において他者と協働する様々な活動を通じて人間性を育む。

- ア 体育祭、文化祭等の学校行事や部活動を通して、生徒に考え、行動させながら、主体性、協調性、自律性を育む。
- イ 地域の奉仕活動・交流活動、その他様々な発表の場面に積極的に参加させ、社会に貢献する力や自己肯定感を育む。

(2) 学校生活における規律を身に付けさせる。

- ア 全校的で効果的な生活指導・遅刻指導を行い、時間・規則を守る意識を育む。
- イ 保護者の協力を得ながら交通安全指導を行う。
- ウ 清掃指導を徹底し、環境美化に務めるとともに、落ち着いた学習環境を維持する。

※ 部活動加入率 R5年度には70%をめざす (R1 60% R2 65.5% R3 62.8%)

遅刻者数 R5年度には1000人をめざす (R1 1170人 R2 1465人 R3 1613人)

(3) 総合的に人権教育を推進することにより、安全・安心な学びの場を維持するとともに、差別やいじめを許さない人間性を育む。

- ア 教科科目の授業や総合的な探究の時間・HR等、すべての教育活動において協同的な学びの場を設定し、他者を思いやる心や差別・いじめを許さない心の育成を図る。
- イ 3年間を見通した人権教育を計画し、すべての人が、等しく同じ人権を有しており、多様な「個性」を持っていることを理解させる。

3 活力ある学校づくり

(1) 専門コース等の教育内容を一層充実させる。

- ア 国際交流の推進により、英語でのコミュニケーション能力の向上を図るとともに、国際的な視野を育む。
- イ 英語専門コースでは、英語力を鍛え、英語を専門的に研究・活用する学部・学科への進学の実現をめざす。
- ウ 理数専門コースでは、科学的な思考に基づいて問題解決にあたる力を身に付けさせるとともに、理系学部・学科への進学の実現をめざす。

(2) 新たな教育課題に対して全校的に取り組む。

- ア 新しい学習指導要領及び大学入学者選抜等の実施に関して、教科や分掌の垣根を越えて学校として取組みを進めていく。
- イ 業務の統合や会議の効率化などを図り、教職員の働き方改革を進めていく。

(3) 学校の教育活動の積極的な情報発信を行う。

- ア 学校説明会、外部説明会、中学校訪問等の広報を充実させる。
- イ Webページ、阜メール等により、学校情報を積極的に伝える。

ウ 危機管理体制を充実させる。 ※ 学校説明会理解度 R5年度には90%以上を維持 (H30 98%、R1 99%、R2 99.3% R3 99.4%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年1月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員「学習指導方法の工夫・改善」92% (89%) と授業改善が計られた。「講習・補習の実施」も、Web 教材の配信も含め、87%(74%)と改善された。昨年度の課題にあった Web コンテンツについては、Web 掲示板の導入により、授業準備や課題連絡等を講座ごとに配信することができた。 ・生徒「授業以外の勉強時間 1 時間以上」32%(29%)、保護者家庭での学校のことについてよく話をする 74%(65%)、「家庭でよく学習している」47%(40%)と肯定回答が増えており、適宜、課題を配信・回収時間を限定する等、改善の兆しもみられる。 <p>【進路指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導への肯定的回答は、生徒 91%(89%)、保護者 80%(77%)、教員 84%(69.4%)と高い評価を得た。引き続き、生徒の多様な進路希望に対して親身な指導に努めたい。 <p>【学校生活】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒「学校行事の工夫」77%(81%)、「自治会活動への参加」75%(75%) コロナ禍で当初の日程を変更し、10 月末から 11 月初旬に行事が集中し、また制限がある中で活動となったため、昨年度並みの評価となった。引き続き、自主性を育む取組に努めたい。 <p>【保護者対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者「相談への適切な対応」81%(87%)、「本校の教育は全般的に満足」80%(81%)と例年同様に高い。今後も、家庭との連携を密に、丁寧な対応に努める。 	<p>第 1 回(7/20(火)15:00~17:00</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークについて、生徒に主体性を持たせるために、教師自身の指導方法に変化を生まなければならない。 ・コロナ禍で部活動が制限される中、新入生の加入率が一定保たれている状況を確認した。クラブミーティングを実施するなどの工夫を伺えた。 ・受験生の安定志向は高校生全般にみられる傾向であるが、阜が丘高校の生徒がどのような過程で進路を選んでいるのか。 →勉強は好きじゃないが、定期テストは頑張れる。年間を通した勉強が苦手である。特に一般受験より受験科目が少なくなる受験方法を選ぶ生徒が多い。そういった基準ではなく、行きたい所をめざすよう呼びかけを行っている。 <p>第 2 回(12/21(火) 15:00~16:20</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携の 1 つ、SGS(SchoolGuardSupporter)に数多く参加してくれて嬉しい。例年より多くの生徒が見守ってくれて、中学生と高校生が並んで迎え入れ、多くの地域の人達に見守られていると、小学生は感じている。 ・より早く学生を確保したいという意図から推薦・公募・AO の枠を多くの大学が拡大している。そうした中で、数年前より AO 受験者のレベルが低下している。PR 内容について、3 年間の高校生活で、何か 1 つ頑張るものを見つけるよう、そのような指導を 1 年時からしてほしい。 → ポートフォリオを作成させているが、形骸化してきている。 ・都立高校では行事を中止した学校が多い中、実施できたことが素晴らしい。 ・IT に対する生徒の技術はどうか。(大学講義での参考に) →Chrome book を利用することで、IT 機器に触れることには慣れている。 ・学校行事や生徒指導、進路関係など、教員が多岐にわたり丁寧に関わっていると感じる。 ・コロナ禍において、あらゆる活動が制限される中で、できる限りのことを生徒たちとともに取り組んでいることがわかりました。 <p>第 3 回(2/2(水) 書面開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断アンケートでは、生徒の 8 割以上が、学校に行くのが楽しいと回答していることや先生の指導を肯定的にとらえていること、保護者の学校への信頼度が高いことなどは、新しい教育課程や端末の導入などで、先生方の情報共有が増え、しっかり話し合われ、同じ方向で取り組んでいこうという取組成果の表れと捉えることができる。 ・例年課題にあがる生徒自身の学校外の自主学習時間の少なさと地域交流の相対的な低さが気になりました。以前、生徒の交通指導で、自分たちがルールを守らないことが地域の人たちにどのように迷惑がかかるのかについて生徒に考えさせることを行ったかと思いますが、自発的に考えさせる課題を各教科工夫すれば、自主学習時間も増加するのではないかと思います。 ・コロナ禍で協同的活動を通じた人間性の育みが取り組みにくかった中、工夫され何とか取り組んでいこうという姿勢は、生徒たちには、とても大切なことであり、継続してもらいたい。 ・「さつき『授業力向上』プロジェクト」が生徒・保護者、教職員に周知され、学校教育の質や学校経営の評価規準の一つとなっていることは、評価できる。また、パンデミック下で、オンラインによる国際交流プログラムが継続的に実現できていることは素晴らしいことである。

3 本年度の取組内容及び自己評価

本年度の取組内容及び自己評価

中 目 標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
1 学 力 向 上 と 進 路 実 現	<p>(1) 教科指導の充実</p> <p>ア ICT を活用し継続的な授業改善</p> <p>イ「主体的・対話的で深い学び」の実現</p>	<p>ア・授業力向上委員会が目標等を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的に授業見学を行い、助言を積み重ねることにより、相互の授業改善に繋げる。 ・生徒端末の導入に伴い、フォーム等による授業理解度の把握、毎時の振返等、授業改善に繋げる <p>イ・校内研修授業及び研究協議、情報交換等により、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざして授業を行う。また、「生徒の主体的に学びに向かう態度」について、評価の方法、基準を検討する中で指導力向上を図る。</p>	<p>ア・授業満足度 85%以上維持 [86.6%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業見学 2.5 回/人 [3.26 回/人] <p>イ・学校教育自己診断(教員)における「学習形態等の工夫を行った」自己評価 85%以上 [85.3%]</p>	<p>ア・授業満足度(生徒による授業アンケート)(◎) 92.3%(前期)、88.7%(後期)、年間通じて 90.5% とりわけ、目標・重点等の説明および思考・表現の取組時間確保の肯定評価が高く、授業改善が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業見学回数 4.57 回/人 今年度は、相互授業見学週間を 2 週間(11/10~11/24) 設け、各自 2 回以上見学した。 <p>イ 「学習形態等の工夫を行った」 89.0%(○) 授業見学の回数増や ICT 端末導入により教材提示・課題配信回収等の授業改善が図られた。</p>

府立北かわち阜が丘高等学校

<p>(2) 自学自習する力の育成</p> <p>ア 学習に向かう意識の向上</p> <p>イ 基礎・基本の学び直しの場づくり</p> <p>ウ 読書活動の推進</p> <p>エ 資格取得の奨励</p>	<p>ア・適切に宿題・課題を出し、実行させることにより、家庭学習を習慣付ける。</p> <p>・充実した講習・補習を設け、積極的な参加を促し、目標達成に向けて努力させる。</p> <p>イ・図書室内自習スペースおよび自習室等を整備し、自学自習できる環境を充実させる。</p> <p>ウ・授業での活用や図書委員会の活動により、図書館に対する親近感を向上させる。</p> <p>エ・各種の検定の積極的な受験を促し、授業や講習を通して合格のための力を付ける。</p>	<p>ア・授業以外の学習1時間以上の生徒 40% [28.9%]</p> <p>・講習・補習の延参加者 3000人以上 [1280人]</p> <p>イ・自習スペースののべ活用者 200名以上</p> <p>ウ・図書館利用率 30%以上 [29%]</p> <p>エ・英検受験者数 80人以上 維持 [97人]</p>	<p>ア・授業以外の学習1時間以上 (△) 32% (←28.9%)</p> <p>宿題・課題等をオンライン配信し、僅かながら改善の兆しが見られた。</p> <p>・講習・補習の延参加者 3175人 (○) (補習 1926人・講習 1249人)</p> <p>イ 放課後1~3名/日 常時活用しており、年間通じて350名が利用 (○)</p> <p>ウ 図書館利用率 29% (○)</p> <p>利用状況は学年進行とともに減じる状況。新書等、生徒の興味・関心の高い蔵書を設置等の環境整備とともに授業での活用を図る。</p> <p>エ 英語検定 (△)</p> <p>第1回 51名、第2回 19名計 70名が受験</p> <p>第1回は 3級 8名合格/10名、準2級 5名合格/26名 2級 4名合格/15名</p> <p>第2回は、 3級 1名、準2級 4名、2級 1名合格</p> <p>別途、1・2年生は GTEC を実施、リスニングテストは、授業で実施する等、授業や講習を通じて4技能を育成する取組を行った。</p>
<p>(3) 進路指導の充実</p> <p>ア 3年間を見通した進路指導</p> <p>イ 模擬試験や学力生活実態調査の活用</p>	<p>ア・1年次「職業理解」2年次「上級学校理解」3年次「進路実現」の目標に沿って、進路HRを中心に継続的な進路指導を行う。</p> <p>イ・進路実現に向け、段階的な目標を明示することで、学習意欲を向上させ、具体的に組み立てる。</p> <p>模擬試験実施前後のガイダンス・分析会を開催し指導に生かす。</p>	<p>ア・進路指導に対する肯定率 85%以上を維持 [88.6%]</p> <p>イ・学力診断テストにおける学力評価(2年次)Cゾーン以上の割合 55%</p> <p>難関・中堅私立大学への進学者数 35名 [12名]</p>	<p>ア 学校教育自己診断(生徒)における「将来の進路や生き方について学ぶ機会がある」に対する肯定回答 91% (◎)</p> <p>イ 学力診断テストにおける学力評価(2年次2学期)Cゾーン以上の割合 76.9% (◎)</p> <p>難関・中堅私立大学への進学者数 13名</p> <p>難関大学への受験者数が例年より増え、3年ぶりに現役で公立大学を受験した。難関・中堅私立大学の延べ合格者数は、27名(2月末現在)で、過去3年間で最も多い実績である。高大連携を行っている大学は、のべ50名が合格しており、コロナ禍で近隣大学を志望する生徒が増えている状況。 (△)</p>
<p>(1) 協働的活動を通じた人間性の育み</p> <p>ア 体育祭や文化祭等の学校行事の充実</p> <p>イ 部活動の活性化</p> <p>ウ 地域貢献</p> <p>2 豊かな人間性の涵養</p>	<p>ア・体育祭や文化祭、HR活動を通して、リーダーを中心に生徒に考え行動させることにより、生徒の主体性を育む。</p> <p>イ・新入生への入部の勧誘に一層取り組む。</p> <p>・3年間部活動を継続できるよう、充実した指導や丁寧な対応で生徒をサポートする。</p> <p>・部員による校内あいさつ運動を奨励し、学校の活性化に繋げる。</p> <p>ウ・地域の奉仕活動及び交流活動(地域清掃、SGS(スクールガードサポーター)、中学生との部活動交流、地域活動への出場等)により、社会に貢献する力を育む。</p>	<p>ア・体育祭満足度 90%以上 [87.3%]</p> <p>文化祭満足度 85%以上 [65.0%]</p> <p>イ・部活動加入率 65% [65.5%]</p> <p>・校内あいさつ運動への参加 延部活数 60以上 [68部]</p> <p>ウ・地域の奉仕活動や交流活動への参加者数 800人以上 [371人]</p>	<p>ア. 体育祭満足度は、83.5%(R2は87.3%)(○)</p> <p>初夏(6月)から10月末に予定変更。種目・運用方法も感染防止対策を踏まえたものに変更しつつ、実施。日程変更、応援団員人数減等、更なる制限が、昨年よりも満足度として減じる要因になったものと思われる。</p> <p>文化祭満足度は、62% (一)</p> <p>コロナ禍により1,2年生は展示・映像部門に限定。3年生は、演劇コンクールを実施し、文化祭当日には、事前に審査した優秀作品を映像にて視聴し、本校の伝統的な取組を1,2年生に継承することができた。一方、鑑賞時の密を避けるため、昨年同様に学年別分散登校とした。各クラス・文化系クラブの作品等生徒達の創意工夫が見られたが、対面での交流がなかったこと、他の行事と連続して実施したこともあり、肯定的回答を回復するに至らなかった。</p> <p>イ. 部活動加入率(6月) 62.8% (○)</p> <p>目標に届かなかったが1学期当初緊急事態宣言下で部活動原則禁止(公式戦を控える運動部のみ活動)の状況下で、新入生歓迎会での部活動紹介、部活ミーティングの定期的開催等により、新入生と在校生とを繋ぐ取組を行い、一定加入率を維持することができた。</p> <p>校内あいさつ運動 (一)</p> <p>緊急事態宣言下で部活動停止期間があり、また、声を出し挨拶を交わすこと等、感染防止対策として活動を自粛したため。</p> <p>ウ. コロナ感染防止の観点から中学生を迎えて部活交流等を今年度も実施できなかった。目標値には達することができなかったが、そのような状況において、以下の取組を行った。(のべ67名) (△)</p> <p>・Web会議で寝屋川支援学校と交流 7/16に感染防止対策として書面開催でなく、『Webかくれんぼ』等のプログラムを準備し、本校生徒が16名参加、交流した。</p> <p>・SGS(スクールガードサポーター) 3クラブ51名が2回に分けて参加。2月実施分(28名参加予定)は、まん延防止重点措置期間の為、実施できなかった。</p>

府立北かわち阜が丘高等学校

<p>(2) 学校生活における規律の確立</p> <p>ア 遅刻指導の取組み</p> <p>イ 保護者と連携した交通安全指導</p> <p>ウ 清掃指導の徹底</p>	<p>ア・生徒の規範意識の醸成に努め、落ち着いた校内環境を維持する。</p> <p>・遅刻防止週間の設定、毎朝の校門指導等、全校体制で遅刻指導に取り組む。</p> <p>イ・自転車通学における安全確保と交通マナーの改善を図るため、保護者と連携した交通安全指導及び意見交換会を開催する。</p> <p>ウ・毎日の掃除を徹底し、学習環境を整える。</p>	<p>ア・遅刻者数 前年度 10%減少 [1465 人]</p> <p>イ・保護者に指導状況を提示する機会として、交通安全指導・意見交換会を年 3 回実施する。 [2 回]</p> <p>ウ・学校教育自己診断(教員)における「清掃が行き届いている」肯定的評価 50% [38.9%]</p>	<p>ア. 1613人(R3) (×)</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎月、生徒指導週間を設け、服装・頭髪指導等、登校指導を行った。 毎朝、登校時、挨拶運動(声掛け)を実施。 友人関係等の不安が体調に現れ、定時に登校できない生徒が一定数生じた。生徒相談委員会等で情報共有すると共に、個別指導を行う等の対応をした。 <p>イ. 今年度は1学期及び1/18(火)は、緊急事態宣言下、中止とし、11/13(土)の1回のみとなり、目標には届かなかった。11月には、保護者4名と教員が通学指導や交換会を行った。また、PTA実行委員会等において通学マナー問題や指導状況を説明する等、保護者には家庭での指導を促した。さらに、登下校時、教員の校外見回り状況もPTA実行委員会・学校運営協議会等で報告するなど、ほぼ目標は達成したと考えられる。(○)</p> <p>ウ. 学校の危機管理および衛生管理を踏まえ、校内環境整備は、逐次改善に努めている。校舎老朽化の要因もあり、学校教育自己診断(教員)における『清掃が行き届いている』の肯定回答は41%と低い結果であった。(△)</p>
<p>(3) 総合的な人権教育の推進</p>	<p>ア 教科科目の授業や総合的な探究の時間・HR等、すべての教育活動において協同的な学びの場を設定し、他者を思いやる心や差別・いじめを許さない心の育成を図る。</p> <p>イ 3年間を見通した人権教育を計画し、すべての人が、等しく同じ人権を有しており、多様な「個性」を持っていることを理解させる。</p>	<p>学校教育自己診断(生徒)における生徒の肯定的回答 『命の大切さを学ぶ機会』80%以上 [84.5%] 『人権について学ぶ機会』80%以上 [84.8%]</p>	<p>学校教育自己診断(生徒) 『命の大切さを学ぶ機会』 81% 『人権について学ぶ機会』 81% (○)</p> <p>8割以上の肯定的回答を得ているが、学年による差が見られ、3年間を見通した人権計画を見直す必要がある。</p>
<p>(1) 専門コース等の教育内容の充実</p> <p>ア 国際交流の推進</p> <p>イ 英語コースの充実</p> <p>ウ 理数コースの充実</p> <p>3 活力ある学校づくり</p>	<p>ア・海外から留学中の大学生等の授業参加または、テレビ会議により海外の学校との交流を2回/年以上実施する</p> <p>イ・英語4技能を一層伸ばす指導 ・英語検定対策</p> <p>ウ・習熟度を踏まえた課題、講習の充実 ・実験を通じた科学的探究能力・プレゼン力の育成</p>	<p>ア・留学生等を1人以上招く または海外の学校とのテレビ会議交流を2回/年以上 [1回]</p> <p>イ・英検合格 2級 2人以上 準2級 4人以上 (R2 2級 0名 準2級 8名) ※第1回 結果</p> <p>ウ・学校説明会での模擬授業で生徒が中学生を指導する。</p>	<p>ア. 留学生・Web交流について (○) ・留学生を迎えられなかったが、その代替として、Web国際交流を多数実施した。 6/7 オーストラリア セントラリアン シニアカレッジの生徒とオンライン交流を実施。 (英語アドバンスドコース2年24名) 8/17 オンライン国際交流(インド) インド各地の大学・高校と日本の高校生53名がオンラインで参加。(本校から1名)双方の文化を紹介(宝塚歌劇・大阪弁等) 11/16 3限 オーストラリア セントラリアン シニアカレッジの生徒とオンライン交流を実施。 (英語アドバンスドコース3年16名) 同日 4限 音楽Ⅱ(選択者)琴演奏披露。日本文化の紹介・質疑応答等の交流(音楽選択31名)</p> <p>イ. 実用英語検定の実施状況 (◎) 第1回は、のべ51名が受験(状況は以下の通り) 3級8名合格/10名, 準2級5名合格/26名 2級4名合格/15名 第2回は、 3級1名、準2級4名合格/11名、 2級1名/7名受験</p> <p>ウ. 学校説明会の模擬授業(生物)では、本校生徒(理数コース(7名))による実験・観察指導(機器取扱、留意事項等)を説明し、ちりめんモンスターの標本観察を体験させることができた。(○)中学生への説明の後、文系の生物演習選択(17名)に対し、同様に観察指導を行い、海の生態について興味を持たせることができた。また、理数アドバンス生徒による探究(調べ学習)発表を行い、教員との質疑応答により理解を深めることができた。</p>
<p>(2) 新しい教育課題への取組み</p> <p>ア 新学習指導要領や大学入学者選抜への対応</p> <p>イ 働き方改革</p>	<p>ア・(週30時間に減じた)新教育課程の編成、総合的な探究の時間等、生徒の探究力の育成を図る。</p> <p>・新しい大学入学者選抜への対応について、進路指導部長を中心として準備を進める。</p> <p>イ・掲示板の活用により、職員会議のペーパーレス、報告に要する時間の短縮を図る。</p>	<p>ア・教育課程検討の進捗状況 授業力向上委員会 4回以上の開催(観点別学習評価のプレ実施。学びに向かう態度の育成・評価について、校内研修を行った) [新規]</p> <p>・大学入試対策の進捗状況</p> <p>イ・掲示板活用数 50件以上 [160件]</p>	<p>ア. 授業力向上委員会(のべ10回)開催 (○) 観点別学習評価について各教科での検討状況を把握し、プレ実施した科目の状況、評価法等について情報共有し、各教科の実践の参考とした。また、授業力向上委員会のWeb掲示板を設定し、教育課程協議会や研修での資料を掲載し、伝達研修とした。あわせて、同委員会メンバーによる校内研修を3回実施した。3学期は内規の見直しを行い、次年度からの実施に向け準備した。 ・大学入学者選抜関連 学校教育自己診断(生徒)における「将来の進路や生き方について学ぶ機会がある」に対する肯定回答(3年) 91% (○)</p> <p>イ. 掲示板活用数 263件 (1/25) (◎) 運営委員会を原則ペーパーレスとし、準備時間の短縮をはかることができた</p>

府立北かわち阜が丘高等学校

<p>(3) 教育活動の積極的な情報発信</p> <p>ア 広報の充実</p> <p>イ Web ページ等による情報発信</p> <p>ウ 危機管理</p>	<p>ア・令和2年度に改定した学校パンフレット作成過程を教員中心から生徒も交えた取組に変更。在校生のメッセージ等、学校説明会、外部説明会、中学校訪問等の更なる充実を図る。</p> <p>イ・Web ページ、携帯連絡網等により、学校の情報を保護者や地域に積極的に発信する。</p> <p>ウ 危機管理体制の適切な運用・持続性のある運用方法を検討。 教職員及び生徒等の緊急連絡体制を確保する。</p>	<p>ア・学校説明会 理解度 90%以上を維持 [99.3%]</p> <p>イ・Web ページ更新 200 回以上を維持 [125 回]</p> <p>ウ・緊急連絡体制の整備状況 100% [100%]</p> <p>※ 臨時休業時のオンライン課題配信等による学習保障ができる体制・コンテンツ等の整備</p>	<p>ア. 第1回学校説明会 11/13(土)実施 中学生 262 名 保護者等 110 名計 372 名参加 参加者による理解度 99.5% (◎) コロナ禍にあり、中学校訪問は中止。 電話による状況の確認、学校案内等資料送付にて代替とした。 第2回学校説明会 12/11(土) 実施 中学生 247 名保護者 113 名他計 364 名参加 体育館で一斉に説明した後、部活体験グループ等に分かれ、校内施設見学及び部活を体験。</p> <p>イ. Web ページ更新による情報発信 (○) HPおよびブログ更新:201件(内訳:記事100件 阜ブログ12件・校長ブログ89件)、 コロナ、JR 遅延対応等、外部からの緊急連絡を阜メールで配信した。</p> <p>ウ. 生徒・保護者への緊急連絡体制が維持でき、整備状況は 100%。(新入生は、保護者共に新規登録し、全生徒・保護者に阜メールを配信できる状況。コロナ学級閉鎖等のクラス別緊急時に活用した) また、一人1 台端末導入を用い、Web 掲示板(クラス、学年別)を設定し、授業での連絡、課題の配信・回収等を含め、クラス別の生徒向け情報発信ツールを構築した。</p> <p>休日の連絡窓口(コロナ関連の緊急連絡を含)として学校代表メールを設置した。校外でメールの内容を確認し、必要に応じて教職員(運営委員会の教職員)で情報共有し、初動対応できる体制を維持した。 (○)</p>
--	--	---	---